

伝統芸

幻の文楽映画公開 「冥途の飛脚」

文楽に魅了されたカナダ人が1979年に撮影した映画「文楽 冥途の飛脚」が東京都写真美術館ホール(恵比寿)で4月1日まで公開中だ。当時は外国向けで、日本では本格上映されなかった幻の作品。監督したマーティ・グロス氏(62)は「上映は日本へのお返し」と語る。

若き日に文楽公演に通い詰めたグロス氏は、その魅力を海外に広めたいと考え、31歳で近松門左衛門の名作「冥途

カナダ人が1979年撮影

の飛脚」を撮った。京都の映画撮影所に舞台セットを組み、今は大御所の竹本住大夫(当時は文字大夫)、吉田篁助らの協力で作品を完成させ、全米のテレビで放送するなど、文楽の海外普及に一役買った。今回は日本語版の字幕を新たに付けている。

グロス氏は「当時は後世に残そうとか考えず、夢中で仕事をした。真夏の京都の撮影で暑かったが、皆さんがよく協力してくれた」と振り返る。「異国趣味ではなく、梅川忠兵衛の義理人情の物語の素晴らしさを海外の人も分かってくれたと思う」と自負する。

「日本の若い観客も劇場は敷居が高いかもしれないが、映画で気軽に見てほしい」と語る。87分。03・3280

・0099。

